

否定移動のパラメータ的変異について

○片岡喜代子

田窪行則

九州大学大学院文学研究科 (言語学)

九州大学文学部言語学講座

1. 導入

WH-疑問文では、英語のように疑問をマークするために節頭に疑問詞を移動する言語と日本語のように移動しない言語がある。

(i) *Who_i did you see t_i?* / (ii) 君は誰にあったの?

次に英語とスペイン語の否定文を見てみよう。

(iii) *He said nothing.*

(iv) *Nada dijo. / *Dijo nada.*

nothing said-he

'He said nothing'

スペイン語では否定辞が節頭に出てきている。本発表ではこの現象を否定をマークするための移動と仮定することで様々な否定の現象が説明できることを示し、否定文についても疑問文と同様、移動における変異が観察されることを示す。

2. 現象と問題提起

各言語には否定の領域内でのみ特定の意味での使用が許されている表現があり、否定対極表現 (Negative Polarity Item, NPI) と呼ばれている。例えば、(1) の 'lift a finger' のような表現である。

(1) *He doesn't lift a finger.* (彼は何一つしようとしな^いい。)

(2) のような英語の any- もこれと同様 NPI として扱われている。

(2) *He didn't say anything.*

スペイン語で n-word と呼ばれている一連の否定辞 (*nadie, nada, nunca..*) にも (3) のように同様の用法があり、NPI としての性質をもつとされる。

(3) *No dijo nada.*

NEG said-he n-thing

'He didn't say anything.'

一方で単独で文否定を構成し、no-と同様否定量化詞 (Negative Quantifier, NQ) としての性質も併せ持つ。

(4) *Nobody came.*

/ (5) *Nadie vino.*

n-body came

'Nobody came.'

従って従来 n-word は NPI として扱われる場合と NQ として扱われる場合があった。

しかしながら現象を詳細に観察してみると、以下に示すように両者には分布や否定辞との共起においてかなり違いが見られることがわかる。

1) any- は主語位置で NPI として認可されないが、n-word は認可される。

(6) **Anybody didn't come.* / (7) *No vino nadie.*

NEG came n-body

'Nobody came.'

2) NPI としての any- が許される疑問文や条件節において n-word は許されない。

(8) *If anyone can move that stone, I'll be amazed.*

- (9) Have you talked to anyone today?
- (10) *Si invitás a ninguno de tus amigos,
If invite-you to n-one of your friends,
me iré a casa.
REF will-go-I home
- (11) *¿Has hablado con nadie hoy?
Have-you talked with n-body today?
- 3) no- は単独でどの位置にも現れるが n-word は単独では動詞の後には現れない。
- (12) He said nothing.
- (13) *Dijo nada. / Nada dijo.^[1] / No dijo nada.
said-he n-thing / n-thing said-he / NEG said-he n-thing
'He said nothing.' 'He didn't say anything'
- 4) any- は否定辞か no- の領域内に入っている必要がある。
- (14) Nobody [_{VP} said anything.]
- (15) *Anybody [_{VP} said anything.]
- (16) *Anybody [_{VP} said nothing.]
- (17) Didn't anybody [_{VP} say anything?]
- 一方 n-word は (19) のように単に否定の領域内にあることが必要なのではなく、動詞より前に否定要素があるかないかが問題になる。
- (18) Nadie [_{VP} dijo nada.]
n-body said n-thing
'Nobody said anything.'
- (19) * [_{VP} [_{VP} Dijo nada] nadie.]
said n-thing n-body
- (20) No [_{VP} [_{VP} dijo nada] nadie.]
NEG said n-thing n-body
'Nobody said anything.'

以上の現象をまとめてみると一般化として言えることは以下の2点である。

- ・スペイン語の否定文では、動詞句より前に一つ否定要素が必要である。
- ・英語では、動詞句の前に否定要素がなくてもいい。

3. 提案と現象説明

これまで十分な説明が与えられなかった 2 で示した違いを説明するために、ここでは素性照合 (feature-checking) の観点から否定現象を捉えなおす。

例えば上述の WH-疑問文においては (v) のように、節頭に疑問素性 [+wh] が存在し、節内の [+wh] 素性を引きつけて照合することで疑問をマークすると捉える。

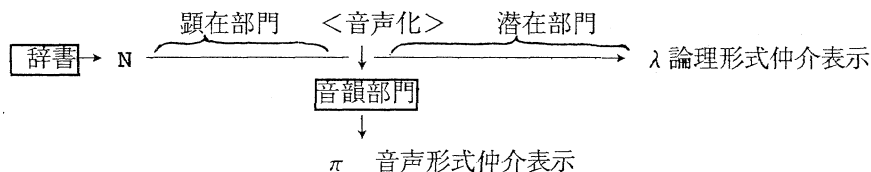
$$\begin{array}{ccc}
 (v) & [c, C[+wh][\dots \alpha [+wh]\dots]] & \rightarrow & [c_{\text{max}}[+wh][c, C[+wh][\dots \alpha \dots]]] \\
 \uparrow & \text{-----} & \rightarrow & \uparrow \text{-----} \\
 & & & \text{(福井直樹 (1998: 200))}
 \end{array}$$

[1] スペイン語では、(S)VO, OV(S)等の語順も許される。

cf. Vio a Juan. / A Juan le vio. (He saw John.)

その照合が言語機能の計算システム(vi)において顕在(overt)部門で行われればその他の素性も伴って動くので英語のようにWH要素が節頭に出てくることになる。潜在(covert)部門であれば日本語のように音声形式には反映されないことになる。

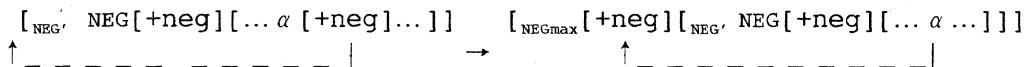
(vi)



(福井直樹 (1998: 195))

ここでは否定の素性照合にも同様の変異があることを提案する。

提案:(vii)



(vii) のような構造において否定の素性照合が行われるが、その照合は各言語により、顕在部門においてか潜在部門かの違いがある。

照合のための否定素性の移動が顕在部門で行われれば否定要素全体が移動し、潜在部門であれば否定素性のみ移動して照合される。その違いは普遍文法(UG)におけるパラメータ的変異(parametric variation)である。両言語の現象における違いは、この素性照合の違いに帰せられる。

この提案に基づき現象を分析すると両言語の違いが以下のように説明できる。

1) スペイン語

否定の素性照合は顕在部門で行われる。従って、overt に否定要素が節頭にないと否定文としてマークされない。各々 (21c), (22c) のように overt に移動していれば適格になる。

(21)a. No dijo nada.

NEG said-he n-thing

b.*Dijo nada. / c. Nada_i [_{VP} dijo t_i.]
said-he n-thing / n-thing said-he

(22)a. No [_{VP} vino nadie.]

NEG came n-body

b.*[_{VP} Vino nadie.] / c. Nadie_i [_{VP} vino t_i .]
came n-body n-body came

2) 英語

否定の素性照合のための overt な移動は必要条件ではない。従って、必ず節頭に否定要素がある必要がない。

(23) He [_{VP} said nothing.]

3) NPI any- と n-word

NPI としての any- は何らかの NPI 認可要素の領域内に入ることを要求されるが、n-word の認可は否定の素性照合が適格に行われたか否かが要因になる。

条件文や疑問文で n-word が認可されないのは条件文や疑問文という環境が要因ではなく、顕在部門での素性照合が行われていないからである。以下のように否定辞の no が現れるか、n-word が overt に動けば条件文、疑問文でも適格な文になる。従って any- と n-word は同等には扱えないと言える。

- (10) ' Si no [_{VP} invitas a ninguno de tus amigos], me iré a casa.
'If you don't invite anyone of your friends, I'll go home.'
(11) "¿Con nadie [_{VP} has hablado hoy]?"
'Have you talked to nobody today?'

4. まとめ

本発表では、否定認可にも素性照合のための移動があり、その移動が顕在(overt)部門においてであるか潜在(covert)部門であるかのパラメータ的変異を仮定することを提案した。それにより、以上示したように、英語の any-/no- とスペイン語の n-word の様々な現象の違いが説明可能である。

<参考文献>

- Chomsky, Noam. 1995. *The Minimalist Program*. MIT Press, Cambridge.
- Haegeman, Liliane. 1995. *The Syntax of Negation*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Kato, Natsuko. 1997. "Local Licensing of N-words in Spanish" *Studies in English Linguistics. A Festschrift for Akira Ota on the Occasion of His Eightieth Birthday*. Ed. by Masatomo Ukaji, Toshio Nakao, Masaru Kajita, Shuji Chiba. The Taishukan Publishing Company, Tokyo.
- Kato, Yasuhiko. 1997. "Negation and Fromal Features." *Studies in English Linguistics. A Festschrift for Akira Ota on the Occasion of His Eightieth Birthday*. Ed. by Masatomo Ukaji, Toshio Nakao, Masaru Kajita, Shuji Chiba. The Taishukan Publishing Company, Tokyo.
- Klima, Edward S. 1964. "Negation in English." In J. Fodor and J.Katz (eds.), *The Structure of Language*. Prentice Hall, Englewood Cliffs.
- Laka, Itziar. 1990. "Negation in Syntax: On the Nature of Functional Categories and Projections." Ph.D.diss. MIT.
- Zanuttini, Raffaella. 1991. "Syntactic properties of sentential negation. A comparative study of Romance languages." Ph.D.diss. University of Pennsylvania.
- 福井直樹 1998. 「極小モデルの展開 言語の説明理論をめざして」『岩波講座 言語の科学 6 生成文法』大津由紀雄他編 岩波書店